

佐治谷ばなしは
佐治の宝

左 岡村 絹江 さん Kinue Okamura
右 中島 嘉吉 さん Kakichi nakashima

それぞれの家で
語り継がれてきた民話

佐治町では、合併前から『五し(はなし(話)・わし(和紙)・ほし(星)・なし(梨)・いし(石)の里』をテーマにまちづくりをしています。

そのうちのひとつ、口承文芸・昔話『佐治谷ばなし』の保存・伝承のため、平成10年に『さじ民話会』が発足しました。平成14年には国民文化祭で『笑いばなし in 佐治』が開催され、その活動の成果が広く全国へ紹介されました。約180年前に建てられた

昔の農家の家を移築した、茅葺き屋根の『民話の館』を拠点に活動し、出前も合わせると年間70回も公演しています。また、県外で開催される公演に招待されることもあり、現在16人いる会員の平均年齢は61歳。意外と若いことに驚きました。

「佐治谷ばなしは、『こんなことをしたらいけないだ』とか『人を笑ったらいつか自分も笑われるで』などの教訓を笑い話にして、佐治の家庭で、大人から子どもへ語り継がれてきたんです。テレビやラジオなどがなかった子ども

さじ民話会

時代、おじいさんがいろいろ端で話してくれる佐治谷ばなしを聞くのが楽しかったです」と前会長の中島さんは笑顔で話します。

今年、中島さんから会長を引き継いだ岡村さんは、「小さいころ、おばあさんが子守唄代わりの『寝物語』として聞かせてくれました」と佐治谷ばなしとの出会いを話します。おばあさんから聞いた話は3つだけでしたが、子ども心に「おもしろい話だな」と思っていたそうです。大人になってから、その話をもっとたくさんあることを知り、ほかの話も知りました。



いと思いい、平成11年に入会されました。人前で語りをするつもりは全くなかった岡村さんに、入会后、さっそく初仕事舞い込みます。ラジオ放送だったため、前会長の中島さんが作った原稿を読むだけの仕事でしたが、とても緊張したそうです。しかしこの時「次は、自分の言葉で話してみたい」と強く思い、国民文化祭への出演に向け、月に2回、ほかの会員と一緒に一生懸命練習し、その甲斐あって、国民文化祭での公演は大成功。「みんなに喜んでもらって、語りをして自分たちも本当



《6月の番組ガイド》

鳥取市行政番組

放送時間が変わりました！

《放送開始時間》

① 6:00	② 7:00	③ 8:00	④ 9:00	⑤ 10:00
⑥ 11:00	⑦ 12:00	⑧ 12:30	⑨ 13:00	⑩ 14:00
⑪ 15:00	⑫ 16:00	⑬ 17:00	⑭ 18:00	⑮ 19:00
⑯ 19:30	⑰ 20:00	⑱ 21:00	⑲ 22:00	

(放送終了後、次の番組開始までは静止画文字放送)

『こんにちは鳥取市です』【放送】毎週火・金・土

週2回の番組で、鳥取市の施策や事業の取り組み状況、各種行事、お知らせを紹介します。

【特集】

- ▷住民自治基本条例
- ▷モラルやマナー・ルールを大切にする風土(人)づくり事業
- ▷所得税、住民税制改革



※6月定例会市議会一般質問(10:00から生中継、19:00から再放送)このほか、盛りだくさんの新しいコーナーがスタートしています。

静止画文字情報『鳥取市からのお知らせ』



イベント・募集・相談などの各種お知らせを、文字画面と音声でご案内します。

いなばびよんびよんネット
自主制作番組

《放送開始時間》

① 6:30	② 7:30	③ 8:30	④ 9:30	⑤ 10:30
⑥ 11:30	⑦ 12:30	⑧ 13:30	⑨ 14:30	⑩ 15:30
⑪ 16:30	⑫ 17:30	⑬ 18:30	⑭ 19:30	⑮ 20:30
⑯ 21:30	⑰ 22:30			

農業番組『いなばアグリタイム』【放送】毎週水・木

福部のラッキョウ、神戸の梅、青谷のびわなど、市内の特産品の収穫や出荷の様子をお伝えします。

『とっとりウオーキング』【放送】毎週日・月

小学校新一年生の学校生活の様子をご紹介します好評の『こんにちはは一年生』を放送しています。

放送曜日が変わりました！

手話番組『手話でコミュニケーション』【放送】毎週日・月

《放送開始時間》7:00、10:00、13:00、18:00、21:00

ニュースや話題、各種行事、お知らせを手話で紹介しています。

情報をお寄せください！

いなばびよんびよんネット ☎(0857)22-6111

※放送予定は予告なく変更することがあります。

番組はホームページでも紹介しています。

<http://www.inabapyonpyon.net>



活動拠点の『民話の館』
(佐治民俗資料館内)

にうれしかったです」と岡村さんは目を細めます。

レパートリーは78

さて、みなさんは「佐治谷ばなし」が何話あるかご存知でしょうか。『さじだにばなし』という本に集められた話は、なんと78話もあります。

この78話を本にまとめる大変な作業を行ったのは中島さんです。「いやあ、苦勞しました。話を知っておられる人に、村民会館に集まってもらって話を聞いたり、自宅を回ったりしました。断片的にしか覚えておられないものもあり、

物語としてまとめる作業は大変でした」と当時を振り返りながら話します。昭和48年に発刊されたこの本は、和紙生産伝習施設『かみんぐさじ』で販売していますが、最近はこの本を佐治のお土産にされる人が増えていっているそうです。お菓子もいいですが、一生残る本は、見るたびに佐治を思い出していただける、とてもいいお土産になっています。会員それぞれの持ちネタは10話ほど。この本を教科書に、何も見ずに語ることができるよう、声に出して読んだり、ノートに書き写したりして一

次の世代への伝承

生懸命覚えます。「毎回同じ話ではなく、季節に合った話やお客さんに合った話をするので、何回聞いても佐治谷ばなしは楽しいんですよ」と、目を輝かせる岡村さんに、人を楽しませることへの喜びを感じます。

ここ数年、民話会では、佐治小学校の総合学習にも協力しています。昨年は、会員が学校に向き、5年生全員に一人1話、1年をかけて佐治谷ばなしを覚える学習の手伝いをしました。

中島さんは、「こうした活動で佐治谷ばなしに興味を持つ人が増え、後継者が育つてくれればいい。佐治谷ばなしは『阿呆ばなし』と言われたが、とんちの効いた、楽しく明るい話なのです。正しく理解をしてもらって、佐治の方言とともに、ずっと残していきたいです」と今後の抱負を話します。また、岡村さんは「佐治谷ばなしは、歌や踊りのように華々しいものではありませんが、細く長く、佐治の宝として語り継いでいきたいと思っています」と力強く話してくれました。